

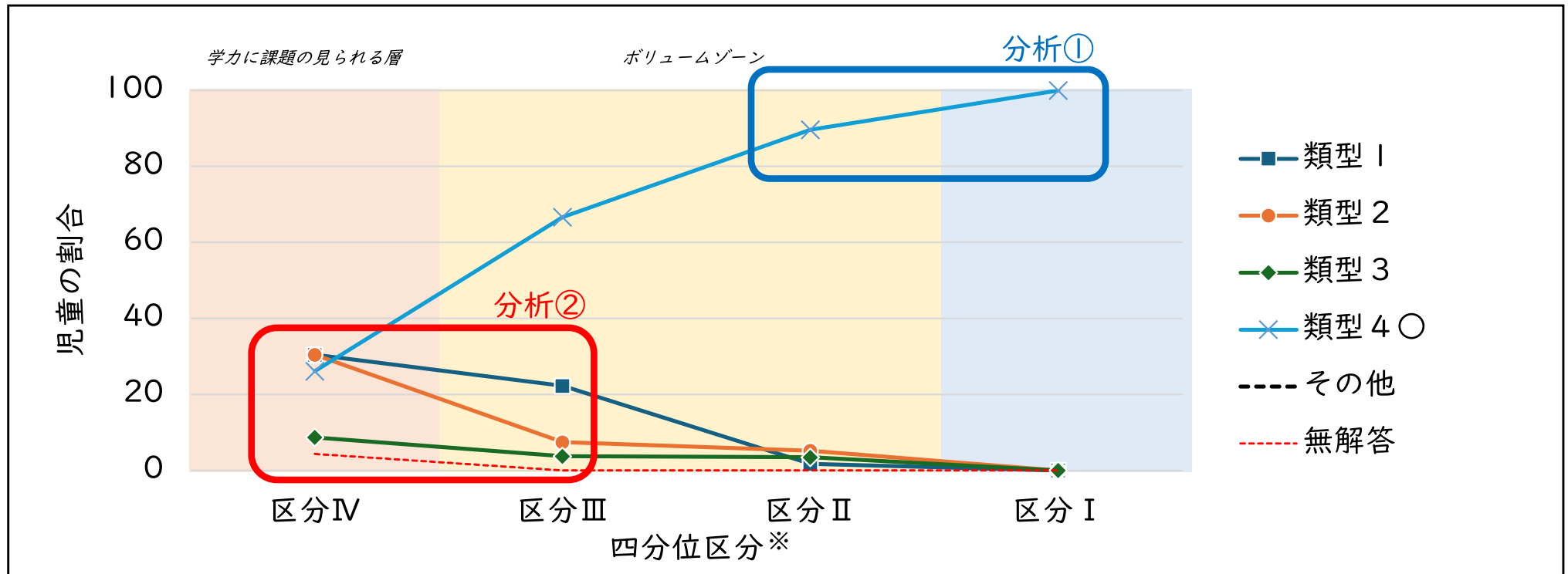
令和7年度 大阪市小学校学力経年調査  
G-P分析図を活用した分析

令和8年3月

大阪市教育委員会事務局

# G-P分析図を活用した分析

「G-P分析図」とは、調査を実施した児童の学力層を分類して（横軸）、学力層ごとに解答パターンがどれくらいの割合でいるか（縦軸）をグラフに表したものです。



※四分位区分は、大阪市小学校学力経年調査における全国（参考）の正答率分布状況から、正答率の高い順に概ね25%区切りで、区分Ⅰ、区分Ⅱ、区分Ⅲ、区分Ⅳの4つに分けたものをさしています。

## 分析①

正答となる類型Ⅳのグラフを見ると、区分Ⅰに属する児童の約10割、区分Ⅱに属する児童の約9割が正答していることが分かります。

## 分析②

区分Ⅳに属する児童は正答率が3割に届かず、同じくらいの割合で類型Ⅰまたは類型Ⅱと解答し、誤答になっていることが分かります。

誤答となる類型Ⅰ、Ⅱの内容を分析することで、区分Ⅳの児童に対する課題を把握し、区分Ⅳの児童に対して指導すべき事柄が分かります。

# 各学年・教科における正答率による区分の目安（令和7年度）

令和7年度 大阪市小学校学力経年調査

小学3年生

(%)

	国語	社会	算数	理科
区分Ⅰ	91.2以上	84.3以上	87.7以上	76.9以上
区分Ⅱ	76.7～91.1	67.6～84.2	72.7～87.6	63.5～76.8
区分Ⅲ	62.1～76.6	50.8～67.5	57.7～72.6	50.1～63.4
区分Ⅳ	62.1未満	50.8未満	57.7未満	50.1未満

小学4年生

(%)

	国語	社会	算数	理科
区分Ⅰ	83.9以上	73.6以上	81.2以上	83.4以上
区分Ⅱ	70.4～83.8	58.7～73.5	65.7～81.1	70.1～83.3
区分Ⅲ	56.9～70.3	43.7～58.6	50.2～65.6	56.7～70
区分Ⅳ	56.9未満	43.7未満	50.2未満	56.7未満

小学5年生

(%)

	国語	社会	算数	理科	英語
区分Ⅰ	82.1以上	81.3以上	76.4以上	78.8以上	93以上
区分Ⅱ	69.1～82	68.3～81.2	61.4～76.3	65.4～78.7	83.3～92.9
区分Ⅲ	56～69	55.3～68.2	46.3～61.3	51.9～65.3	73.6～83.2
区分Ⅳ	56未満	55.3未満	46.3未満	51.9未満	73.6未満

小学6年生

(%)

	国語	社会	算数	理科	英語
区分Ⅰ	83.5以上	81.9以上	87.2以上	78.8以上	93.6以上
区分Ⅱ	70.8～83.4	67.3～81.8	73.1～87.1	66～78.7	81.1～93.5
区分Ⅲ	58.2～70.7	52.7～67.2	58.9～73	53.1～65.9	68.5～81
区分Ⅳ	58.2未満	52.7未満	58.9未満	53.1未満	68.5未満

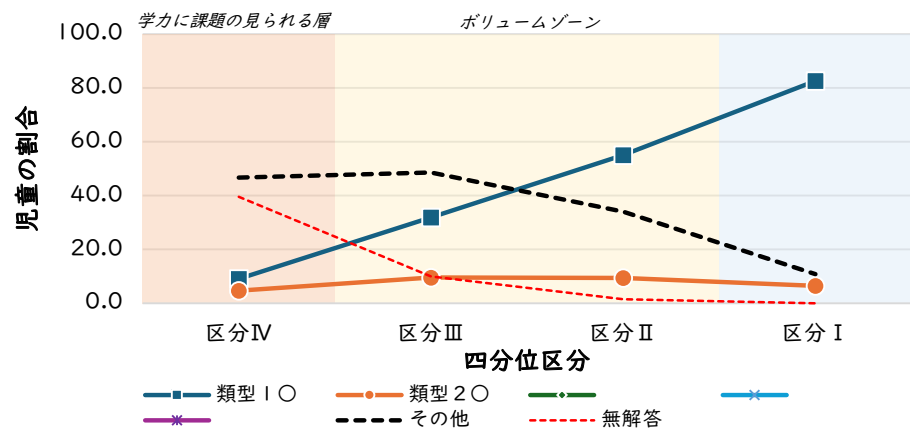
# 小学校学力経年調査問題分析（小学校3年生・国語）

問題番号	7	解答形式	記述	本市正答率	49%
------	---	------	----	-------	-----

問題の概要	文章を書く
出題の趣旨	書く内容の中心を明確にして、文章の構成を考えている。
正答	2段落構成で書く。

類型	正誤	解答類型（定義）
類型1	○	条件通り
類型2	○	2段落になっているが、段落頭の1文字空けがない場合
その他	×	上記以外の解答
無解答	×	無解答（無記入の場合）

G-P分析図（本市小学校3年生全体）



区分ごとの割合（%）

	区分Ⅳ	区分Ⅲ	区分Ⅱ	区分Ⅰ
類型1 ○	9.1	31.9	55.1	82.6
類型2 ○	4.7	9.6	9.4	6.5
その他	46.7	48.6	34.0	10.8
無解答	39.6	9.9	1.5	0.0

【分析図から読み取ったこと】

本問題は、書く内容の中心を明確にして、構成を考え文章を書く問題である。最も注目すべき点は、「その他」の解答の割合が高く、区分Ⅰにあっても10.8%いることである。多くの児童は文章自体は書けているものの、指定された「2段落構成」になっていない解答が多い。これは「何を書くか」以前に、段落を分けるという構成のルールを理解や、文章を段落構成で組み立てる学習が不足していることを示唆している。

また、区分Ⅳでは36.9%が無解答である。児童に「どこから書き始めればよいか分からない」といった状況が起きている可能性が高い。書き始めるための手がかりや型等が十分に用意されていないと考えられる。

一方、類型2の割合は、どの区分でも10%以下と低い。したがって、まず優先すべきは「段落を分ける」ことの学びの定着であると考えられる。

【指導の改善に向けて】

書きたい内容を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えさせることが大切である。さらに、区分Ⅳの児童には、まず一文でも書き始められる状態をつくるために、段落それぞれの書き出しをあらかじめ決めるなど、書き始めの型を示して定型化し、段落構成で書く学習の積み重ねが必要と考える。

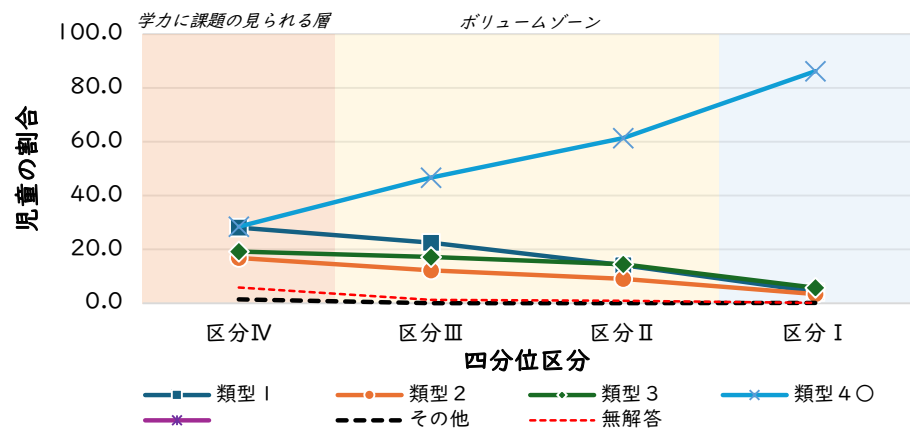
## 小学校学力経年調査問題分析（小学校3年生・社会）

問題番号	2(3)	解答形式	選択	本市正答率	57.6%
------	------	------	----	-------	-------

問題の概要	市の様子
出題の趣旨	市の交通の様子について、地図をもとに判断している。
正答	④

類型	正誤	解答類型（定義）
類型1	×	選択肢1を選んだもの（選択問題以外では正答を書いたもの）
類型2	×	選択肢2を選んだもの
類型3	×	選択肢3を選んだもの
類型4	○	選択肢4を選んだもの
その他	×	上記以外の解答
無解答	×	無解答（無記入の場合）

**G-P分析図（本市小学校3年生全体）**



区分ごとの割合 (%)

	区分Ⅳ	区分Ⅲ	区分Ⅱ	区分Ⅰ
類型1	28.1	22.5	14.1	4.3
類型2	16.8	12.3	9.0	3.4
類型3	19.2	17.2	14.5	5.8
類型4○	28.5	46.7	61.5	86.3
その他	1.5	0.1	0.0	0.1
無解答	5.9	1.3	0.9	0.2

**【分析図から読み取ったこと】**

本問題は、地形図から「おおさか」駅に着目し、方位や鉄道網、沿線の様子といった複数の情報から交通の広がりを読み取っている選択肢を判断する問題である。正答である類型4（鉄道を使って他の市に行ける）のグラフを見ると、区分Ⅰでは86.3%が高い正答率を示しているが、区分Ⅲで46.7%、区分Ⅳでは28.5%と正答率が大きく低下している。誤答に着目すると、類型1（方位の誤認）を選んだ児童が全層で一定数おり、特に区分Ⅳでは28.1%と、正答である類型4とほぼ同数に達している。これは「てんのうじ」駅から見て「北」にある「おおさか」駅を、「東」と誤認してしまった可能性を示唆している。地図上の地名や駅の位置関係を把握し、空間的な広がりを正確に読み取ることは難しかったことがうかがえる。

**【指導の改善に向けて】**

地図上の地名や交通網のつながりから、自分たちの住む街がどのように他の地域と結びついているかという「空間的な広がり」を捉える必要がある。具体的には、地図を活用して「この線路はどこへ続いているか」をなぞったり、主要な駅同士の方位を確認したりする活動が考えられる。また、普段から「八方位」を意識した問いかけを行い、地図上での位置関係を常に方位とセットで説明する機会を増やすとよい。

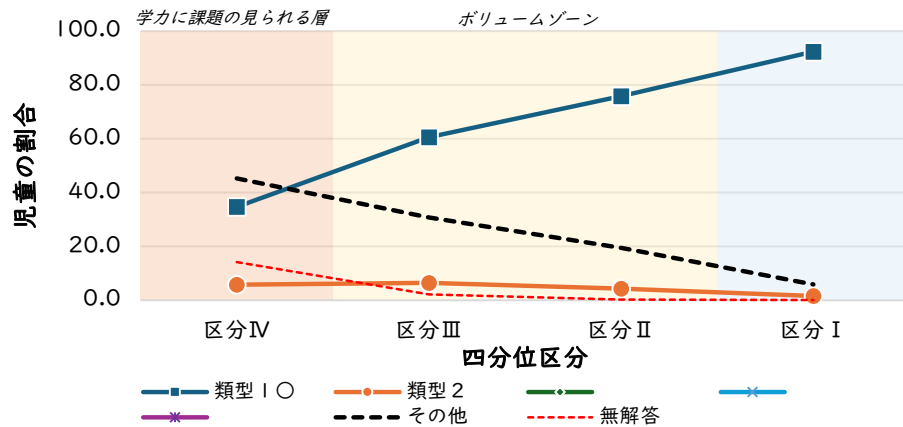
小学校学力経年調査問題分析（小学校3年生・算数）

問題番号	3(6)	解答形式	短答	本市正答率	65.6%
------	------	------	----	-------	-------

問題の概要	たし算・ひき算				
出題の趣旨	4けた－3けた＝3けた（波及的繰り下がりあり）の計算ができる。				
正答	655				

類型	正誤	解答類型（定義）
類型1	○	正答
類型2	×	755 [繰り下がりをしていない]
その他	×	上記以外の解答
無解答	×	無解答（無記入の場合）

G-P分析図（本市小学校3年生全体）



【分析図から読み取ったこと】

本問題は「4けた－3けた＝3けた（波及的繰り下がりあり）」の計算問題である。区分Ⅰの正答率は92.4%と極めて高いが、区分Ⅳでは34.7%まで低下しており、計算の確実性に大きな開きがある。

繰り下がり処理を行わずに計算したと考えられる類型2の割合は、全ての区分で1.6～6.5%と一定数存在している。これは、計算の手順を機械的に覚えているものの、空位がある場合の繰り下がりの仕組みを正しく理解できていない層が一定数いることを示している。

【指導の改善に向けて】

分析結果から、計算過程を可視化する指導の充実が必要であると考えられる。本問題のように10の位が「0」である場合に、1000の位、100の位と、どのように順次繰り下げが行われるのかを、位取り表などを用いて視覚的に理解させることが有効である。計算をする前に「答えはおよそ700くらいになる」「答えは700より小さくなる」といった答えの見積もりを行い、誤答を防ぐ意識を高めることが大切である。また、たしかめ算により、ひき算の答えを確認する指導も重要である。

区分ごとの割合 (%)

	区分Ⅳ	区分Ⅲ	区分Ⅱ	区分Ⅰ
類型1 ○	34.7	60.7	75.9	92.4
類型2 ●	5.8	6.5	4.3	1.6
その他	45.3	30.7	19.5	5.9
無解答	14.2	2.1	0.3	0.1

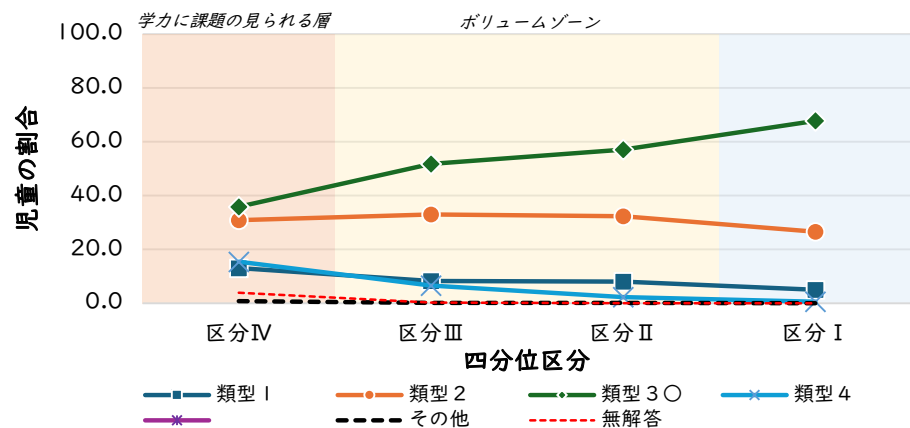
## 小学校学力経年調査問題分析（小学校3年生・理科）

問題番号	3(3)	解答形式	選択	本市正答率	53.6%
------	------	------	----	-------	-------

問題の概要	こん虫のからだのつくり				
出題の趣旨	体のつくりから、昆虫を指摘できる。				
正答	③				

類型	正誤	解答類型（定義）
類型1	×	選択肢1を選んだもの（選択問題以外では正答を書いたもの）
類型2	×	選択肢2を選んだもの
類型3	○	選択肢3を選んだもの
類型4	×	選択肢4を選んだもの
その他	×	上記以外の解答
無解答	×	無解答（無記入の場合）

**G-P分析図（本市小学校3年生全体）**



**【分析図から読み取ったこと】**

本問題は、図示された4種類の生物の体のつくりから昆虫を指摘できるかを問う問題である。

正答は類型3であるが、2種類を昆虫と判断した類型2の解答が目立つこと、4種類すべてを昆虫と判断した類型4の解答がどの区分でも比較的少ない割合であることから、昆虫は「頭・胸・腹」の3つの部分からできているという知識は身に付いていても、示された図を解釈して判断することが難しかったと考えられる。

**【指導の改善に向けて】**

昆虫の特徴である「頭・胸・腹」や足、羽について、それぞれどこなのか、どうなっているのかを、実物や写真、図などを確認しながら、いろいろな生物を観察させる学習活動を取り入れることが考えられる。

区分ごとの割合 (%)

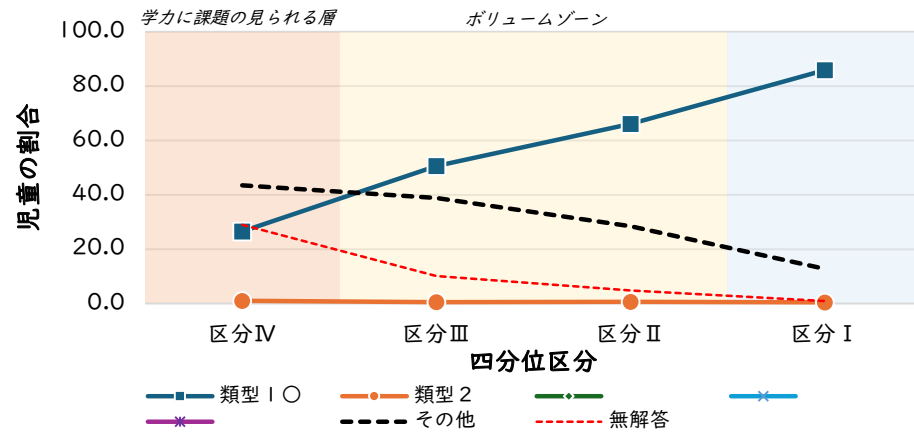
	区分Ⅳ	区分Ⅲ	区分Ⅱ	区分Ⅰ
類型1	13.1	8.3	8.0	5.0
類型2	30.9	33.0	32.4	26.6
類型3○	35.9	51.8	57.1	67.8
類型4	15.5	6.6	2.3	0.6
その他	0.8	0.1	0.1	0.0
無解答	3.9	0.2	0.1	0.0

小学校学力経年調査問題分析（小学校4年生・国語）

問題番号	2③	解答形式	短答	本市正答率	58.8%
問題の概要	漢字を書く				
出題の趣旨	第3学年に担当されている漢字を正しく書いている。				
正答	悲しい				

類型	正誤	解答類型（定義）
類型1	○	正答
類型2	×	送り仮名が未記入、あるいは間違っている場合
その他	×	上記以外の解答
無解答	×	無解答（無記入の場合）

G-P分析図（本市小学校4年生全体）



【分析図から読み取ったこと】

本問題は、第3学年に担当されている漢字を正しく書く問題である。区分Ⅰの正答率は85.9%と高く、概ね定着しているのに対し、区分Ⅳの正答率は26.5%と低い。着目すべき点は、類型2（送り仮名が未記入、あるいは間違っている場合）の割合が、どの区分においても1%以下である一方、「無解答」よりも「その他」の誤答の割合の方が高いことである。このことから、送り仮名を間違えるというよりも、「悲」という字形を正しく書くことができていないということが考えられる。

【指導の改善に向けて】

正しい字形で覚えるためには、筆順を再度確認し、正しい筆順で覚えることが重要である。また、習った漢字を、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにする必要がある。

区分ごとの割合（%）

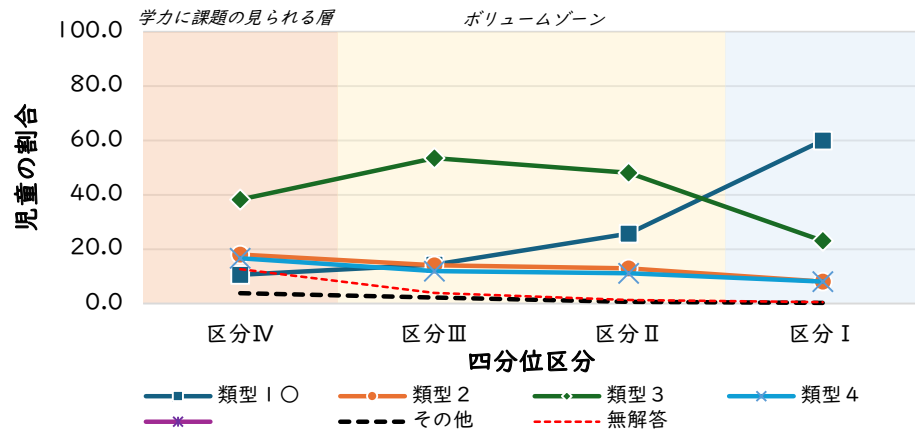
	区分Ⅳ	区分Ⅲ	区分Ⅱ	区分Ⅰ
類型1 ○	26.5	50.6	66.1	85.9
類型2 ●	1.0	0.5	0.6	0.4
その他	43.5	38.8	28.5	12.8
無解答	29.0	10.1	4.8	0.9

小学校学力経年調査問題分析（小学校4年生・社会）

問題番号	4②	解答形式	選択	本市正答率	29.5%
問題の概要	自然災害からくらしを守る				
出題の趣旨	災害対策について、資料を読み取っている。				
正答	①				

類型	正誤	解答類型（定義）
類型1	○	選択肢1を選んだもの（選択問題以外では正答を書いたもの）
類型2	×	選択肢2を選んだもの
類型3	×	選択肢3を選んだもの
類型4	×	選択肢4を選んだもの
その他	×	上記以外の解答
無解答	×	無解答（無記入の場合）

G-P分析図（本市小学校4年生全体）



区分ごとの割合（%）

	区分Ⅳ	区分Ⅲ	区分Ⅱ	区分Ⅰ
類型1 ○	10.6	14.3	25.7	60.0
類型2 ●	18.0	14.1	13.0	8.1
類型3 ◆	38.3	53.5	48.2	23.1
類型4 ○	16.7	11.9	11.1	8.1
その他	3.8	2.3	0.7	0.2
無解答	12.6	3.9	1.3	0.5

【分析図から読み取ったこと】

本問題は、大阪市の高潮対策を示した地図資料を読み取り、西淀川区と住之江区の対策を比較して「住之江区のみ」で行われている対策（土をもる）を選択する問題である。正答である類型1（土をもる・正答）のグラフを見ると、区分Ⅰでは60.0%が正答しているが、区分Ⅱで25.7%、区分Ⅲで14.3%、区分Ⅳで10.6%と正答率が低い状況にある。

誤答に着目すると、類型3（防潮堤をつくる）を選んだ児童は区分Ⅱ・Ⅲで約半数、区分Ⅳで38.3%であった。資料を見ると、防潮堤は両区共通の対策として示されているが、地図上の記号の多さや範囲に惑わされ、共通点と相違点を正確に判別できなかったことが推察される。また、無解答のグラフに着目すると、区分Ⅳで12.6%と高い割合を示しており、複数の地域の情報を地図から抽出・比較することに困難を感じた児童が多かったことがうかがえる。

【指導の改善に向けて】

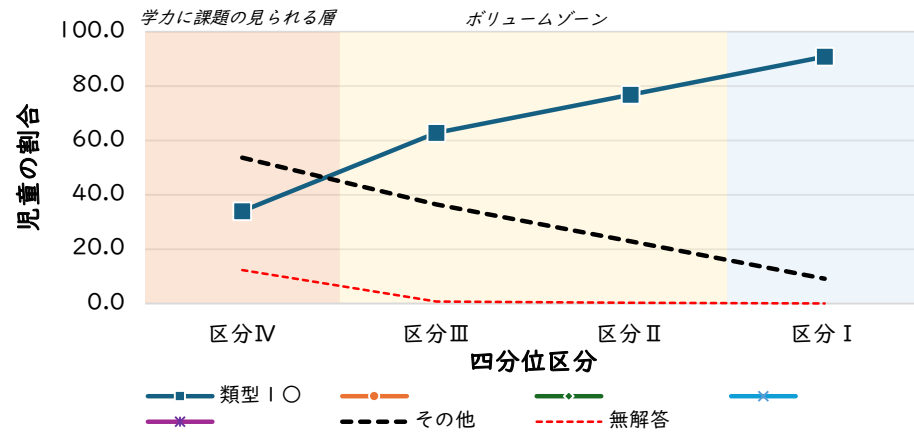
児童の実態に合わせて学習活動を細分化する工夫が必要である。まずは一つの資料を全員で読み取り、次に複数の資料について二つの対象を特定の視点（「共通点」と「差異点」）で比較しながら情報を整理する。ベン図や比較表などの思考ツールの活用も考えられる。また、「○○区にはあって、△△区にはないものは何か」といった限定的な条件での問いかけを意図的に行い、地図記号や凡例を根拠にして説明できるようにすることが重要である。

小学校学力経年調査問題分析（小学校4年生・算数）

問題番号	3(1)	解答形式	短答	本市正答率	69.1%
問題の概要	億と兆・がい数の表し方				
出題の趣旨	上から2けたの概数の表し方を理解している。				
正答	88000				

類型	正誤	解答類型（定義）
類型Ⅰ	○	選択肢Ⅰを選んだもの（選択問題以外では正答を書いたもの）
その他	×	上記以外の解答
無解答	×	無解答（無記入の場合）

G-P分析図（本市小学校4年生全体）



区分ごとの割合（%）

	区分Ⅳ	区分Ⅲ	区分Ⅱ	区分Ⅰ
類型Ⅰ○	34.0	62.9	76.8	90.8
その他	53.7	36.4	22.9	9.1
無解答	12.3	0.7	0.3	0.0

【分析図から読み取ったこと】

本問題は、上から2けたの概数の表し方を問う問題である。  
 区分Ⅰの正答率は90.8%と高い水準にあるが、区分Ⅳでは34.0%と大幅に低下しており、概数の概念形成に大きな差が見られる。  
 特に区分Ⅳでは「その他」（誤答）が53.7%、「無解答」が12.3%であり、「上から2けた」という表現の意味が理解できていないことや、四捨五入する位（本問題では上から3けたのための「7」）が判断できていないことが考えられる。

【指導の改善に向けて】

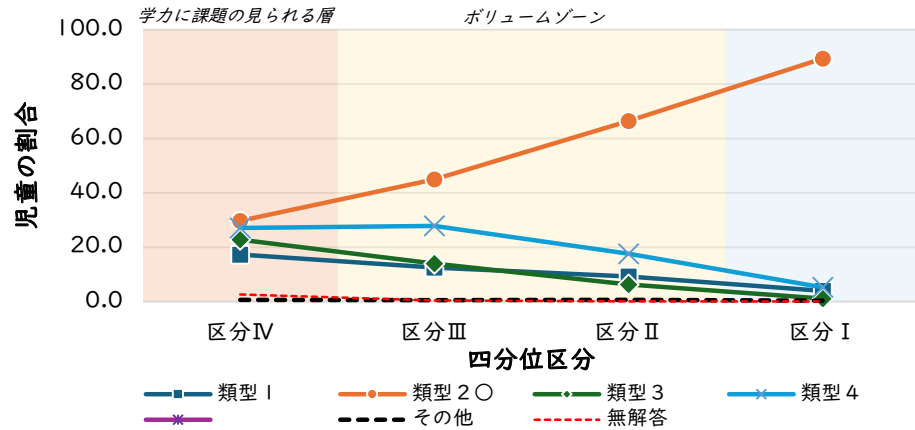
分析結果から、概数の表し方における手順の定着と、位取りの構造的な理解を深める指導が必要である。  
 「上から2けた」は、数を左（高い位）から数えるなど視覚的に理解できるようにする。また位取り表などを活用し、どの数字に着目して四捨五入すべきかを明示する活動を取り入れる。そして、その数字が「0、1、2、3、4だから切り捨て」、または「5、6、7、8、9だから切り上げ」というように、四捨五入の処理を言語化することも有効である。

小学校学力経年調査問題分析（小学校4年生・理科）

問題番号	4(1)	解答形式	選択	本市正答率	61.1%
問題の概要	電気のはたらき				
出題の趣旨	乾電池のつなぎ方をもとに実験の結果を推測できる。				
正答	②				

類型	正誤	解答類型（定義）
類型1	×	選択肢1：乾電池の向きが逆でも、モーターの回る向きと速さは同じだと考えている場合
類型2	○	選択肢2：正答
類型3	×	選択肢3：乾電池の向きが逆のとき、モーターの回る向きは同じだが、回る速さが変わると考えている場合
類型4	×	選択肢4：乾電池の向きが逆のとき、モーターの回る向きは逆になり、回る速さが変わると考えている場合
その他	×	上記以外の解答
無解答	×	無解答（無記入の場合）

G-P分析図（本市小学校4年生全体）



【分析図から読み取れること】

本問題は、乾電池のつなぎ方を基に実験の結果を推測する問題である。区分Ⅰに向けて正答の割合が増加している。一方で、誤答の中では、類型4（乾電池の向きが変わると回転の速さも変化すると考える）の割合が区分Ⅳで27.0%、区分Ⅲで27.8%と比較的多く見られる。また、類型1（乾電池の向きが変わっても回転方向は変わらないと考える）も一定数見られる。これらのことから、乾電池の向きを変えるとモーターの動きがどのように変化するのかについて、十分に理解できていない児童がいることが分かる。

【指導の改善に向けて】

乾電池とモーターとの関係について、どのような変化をするのかを実験を通して確かめる活動を充実させることが必要である。その際、実験結果を基にモーターの回転方向と速さに関するものが何かについて整理したり説明したりする活動を取り入れるなど、電流とモーターの回る向きや速さといった関係する条件を見いだす学習場面の設定が大切である。

区分ごとの割合 (%)

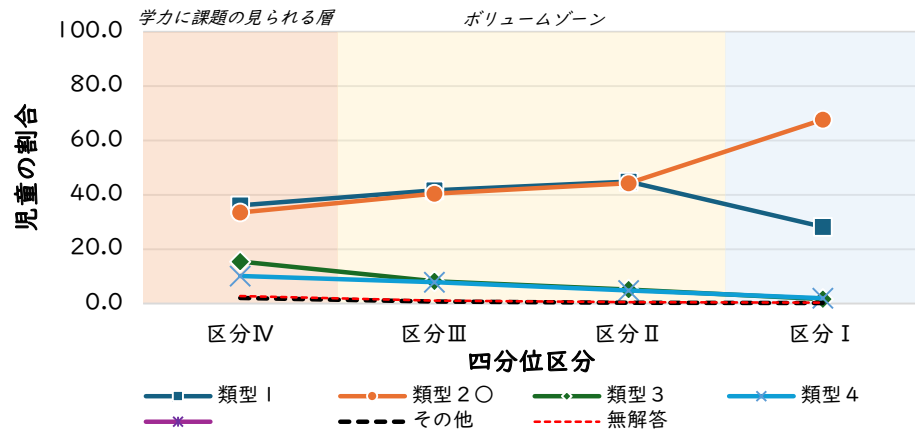
	区分Ⅳ	区分Ⅲ	区分Ⅱ	区分Ⅰ
類型1	17.3	12.5	9.2	3.9
類型2 ○	29.7	44.9	66.4	89.4
類型3	22.8	13.9	6.3	1.1
類型4	27.0	27.8	17.5	5.2
その他	0.6	0.5	0.6	0.3
無解答	2.6	0.4	0.1	0.0

小学校学力経年調査問題分析（小学校5年生・国語）

問題番号	3(1)	解答形式	選択	本市正答率	48.7%
問題の概要	言葉の学習				
出題の趣旨	漢字の由来について理解している。				
正答	②				

類型	正誤	解答類型（定義）
類型1	×	選択肢1：会意文字を選んでいる場合
類型2	○	選択肢2：正答
類型3	×	選択肢3：象形文字を選んでいる場合
類型4	×	選択肢4：指事文字を選んでいる場合
その他	×	上記以外の解答
無解答	×	無解答（無記入の場合）

G-P分析図（本市小学校5年生全体）



【分析図から読み取ったこと】

本問題は、漢字の由来について「物の形をかたどったもの（象形文字）」、「事がらを印などで示したもの（指事文字）」、「漢字の意味を合わせたもの（会意文字）」、「音を表す部分と意味を表す部分を組み合わせたもの（形声文字）」が理解できているかどうかを問う問題である。

区分II・III・IVにおいては、誤答の類型1（会意文字）と正答の類型2（形声文字）を選んだ児童の割合は、ほぼ同等である。区分Iにおいてもおよそ3割の児童が、類型1を選択している。

このことから、「会意文字」と「形声文字」を混同し、漢字の成り立ちを理解していないことが考えられる。

【指導の改善に向けて】

漢字の成り立ちの仕組みについておさえる必要がある。また、漢字の成り立ちについて分からないときは、漢字辞典で調べて確かめるようにすることを習慣付けることも大切である。

区分ごとの割合 (%)

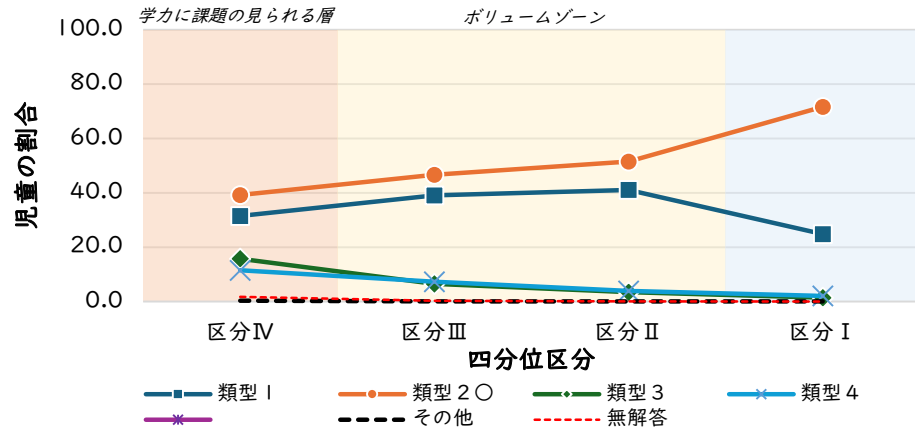
	区分IV	区分III	区分II	区分I
類型1	36.1	41.6	44.9	28.2
類型2○	33.5	40.4	44.3	67.7
類型3	15.5	8.2	5.2	1.6
類型4	10.1	7.9	4.8	2.0
その他	2.0	0.8	0.3	0.2
無解答	2.8	1.0	0.5	0.3

小学校学力経年調査問題分析（小学校5年生・社会）

問題番号	4(1)	解答形式	選択	本市正答率	48.2%
問題の概要	日本の農業				
出題の趣旨	米の生産が盛んな地域の気候について、複数のグラフを読み取っている。				
正答	②				

類型	正誤	解答類型（定義）
類型1	×	選択肢1を選んだもの（選択問題以外では正答を書いたもの）
類型2	○	選択肢2を選んだもの
類型3	×	選択肢3を選んだもの
類型4	×	選択肢4を選んだもの
その他	×	上記以外の解答
無解答	×	無解答（無記入の場合）

G-P分析図（本市小学校5年生全体）



区分ごとの割合（%）

	区分Ⅳ	区分Ⅲ	区分Ⅱ	区分Ⅰ
類型1	31.5	39.1	41.1	24.8
類型2 ○	39.2	46.7	51.5	71.6
類型3	15.7	6.5	3.5	1.4
類型4	11.5	7.3	3.9	2.1
その他	0.3	0.1	0.0	0.0
無解答	1.7	0.3	0.1	0.0

【分析図から読み取ったこと】

本問題は、米の生産が盛んな地域の気候について、複数のグラフ（平均気温と日照時間）から読み取った内容とまとめの文を照らし合わせ、適切なグラフの組み合わせを選択する問題である。

正答である類型2のグラフを見ると、区分Ⅰでは71.6%が正答しているものの、区分Ⅲでは46.7%、区分Ⅳでは39.2%に留まっている。

誤答に着目すると、類型1を選んだ児童が全区分で最も高く、特に区分Ⅱ・Ⅲでは約40%の児童がこの誤答を選択している。これは「まとめ」にある「8月の平均気温が25度まで上がる」という条件は確認できても、日照時間の条件を正確に照らし合わせることができなかったことが考えられ、複数の資料から条件に合う情報を精査し判断することは難しかったことがうかがえる。

【指導の改善に向けて】

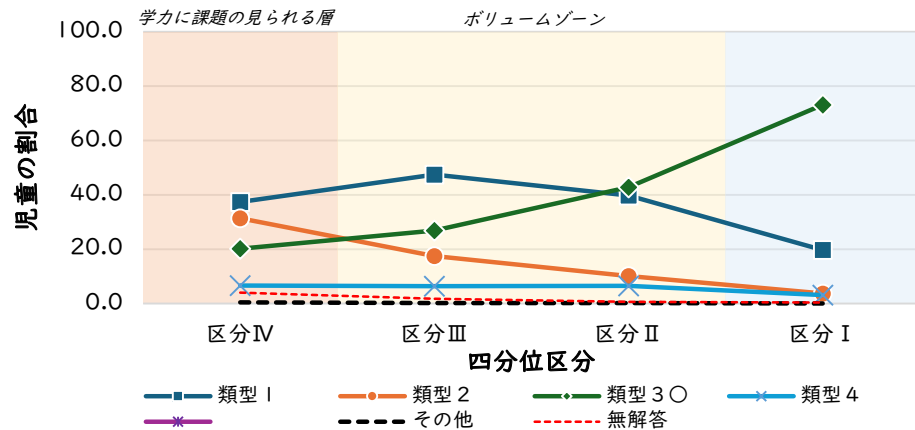
1つのグラフを読み取るだけでなく、「複数のグラフ」や「文章の条件」を関連付けて、必要な情報を抽出・比較する活動を充実させる必要がある。そのためにも、複数の資料を提示する際には、「気温が高いのはどちらか」、「日照時間が条件に合うのはどれか」などと段階的に問いかけ、根拠を明確にしながら選択する学習に取り組ませる必要がある。

小学校学力経年調査問題分析（小学校5年生・算数）

問題番号	13(2)	解答形式	選択	本市正答率	44.8%
問題の概要	平均				
出題の趣旨	平均から全体の量を推測することができる。				
正答	③				

類型	正誤	解答類型（定義）
類型1	×	選択肢1を選んだもの（選択問題以外では正答を書いたもの）
類型2	×	選択肢2を選んだもの
類型3	○	選択肢3を選んだもの
類型4	×	選択肢4を選んだもの
その他	×	上記以外の解答
無解答	×	無解答（無記入の場合）

G-P分析図（本市小学校5年生全体）



【分析図から読み取ったこと】

本問題は、平均から全体の量を推測する問題である。  
 正答の割合は、区分Iで73.1%であるのに対し、区分IVでは20.2%と大幅に低く、統計的な推論の定着度に大きな開きがある。  
 また、全区分を通して類型1を選んだ児童の割合が誤答の中では最も高く、特に区分III・IVでは正答を上回る結果となっている。これは、サンプルの平均値（約21g）を求めて完了したと考えてしまい、問題の要求である「20個全体の重さ」の求答にまで至らなかったためと考えられる。

【指導の改善に向けて】

平均の算出に留まらず、それを活用して「全体を予測する」という統計的な見方・考え方を育てる指導が必要である。  
 計算に着手する前に「何を求めるのか」を明確にする指導を行う。サンプルの平均値を「1単位量」と捉え、それに全体の個数をかけるというプロセスを可視化させることが有効である。  
 また、22g程度のトマトが20個あれば「20g×20個で400gくらいになるはずだ」という答えの見積りを立てさせることも大切である。これにより、21g（類型1）や84g（類型2）といった明らかに少なすぎる誤答に自ら気づく力を養う。  
 さらに、実際に身近な物（クリップなど）を使い、一部の重さから全体の個数や重さを考える活動を取り入れる。実体験を通して、平均値が「代表値」として全体を推測する際に役立つことを実感させる授業改善が大切である。

区分ごとの割合 (%)

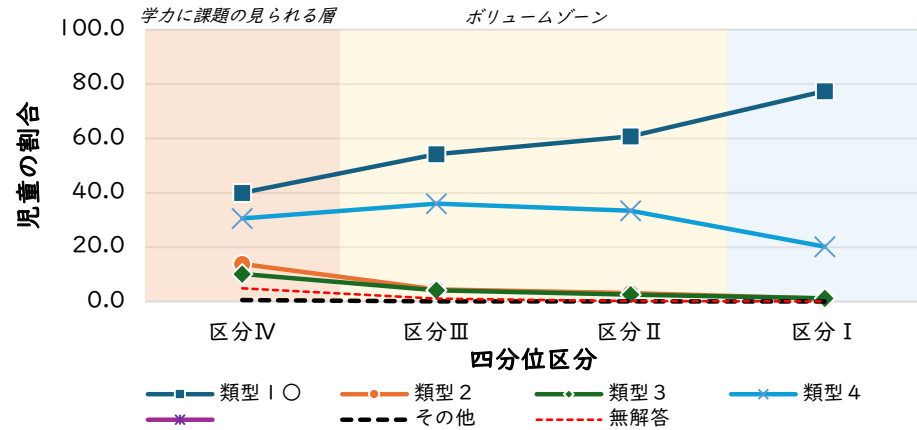
	区分IV	区分III	区分II	区分I
類型1	37.4	47.4	39.7	19.7
類型2	31.4	17.5	10.2	3.7
類型3○	20.2	26.8	42.9	73.1
類型4	6.6	6.4	6.5	3.1
その他	0.4	0.1	0.1	0.0
無解答	4.0	1.7	0.6	0.4

小学校学力経年調査問題分析（小学校5年生・理科）

問題番号	10(3)	解答形式	選択	本市正答率	60%
問題の概要	けんび鏡の使い方				
出題の趣旨	顕微鏡の見え方と操作方法について理解している。				
正答	①				

類型	正誤	解答類型（定義）
類型1	○	選択肢1を選んだもの（選択問題以外では正答を書いたもの）
類型2	×	選択肢2を選んだもの
類型3	×	選択肢3を選んだもの
類型4	×	選択肢4を選んだもの
その他	×	上記以外の解答
無解答	×	無解答（無記入の場合）

G-P分析図（本市小学校5年生全体）



【分析図から読み取れること】

本問題は、顕微鏡の見え方と操作方法について理解しているかを問う問題である。誤答の中では類型4の割合が全ての区分で最も高くなっている。このことから、顕微鏡では像の上下左右が逆に見えることを踏まえ、観察したいものを中央に移動させる操作について理解が十分ではない児童がいることがうかがえる。

【指導の改善に向けて】

児童が実際に顕微鏡を操作しながら像の動きを確かめる活動を充実させることが必要である。顕微鏡を用いた観察を行う機会を増やし、スライドガラスを動かしたときに視野内の像がどの方向に動くのかを見いださせうえて、顕微鏡の操作と像の動きについて表現させるなど、知識と技能を連携させる指導場面を設定することが重要である。

区分ごとの割合 (%)

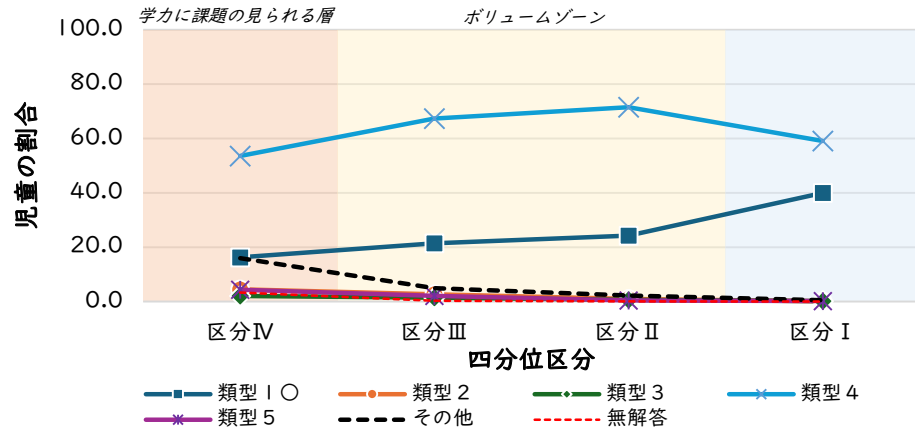
	区分Ⅳ	区分Ⅲ	区分Ⅱ	区分Ⅰ
類型1 ○	40.0	54.2	60.7	77.4
類型2 ●	13.8	4.4	3.1	1.1
類型3 ◆	10.1	4.2	2.5	1.2
類型4 ×	30.6	36.0	33.4	20.2
その他 *	0.5	0.1	0.1	0.0
無解答 -	4.9	1.1	0.2	0.1

小学校学力経年調査問題分析（小学校5年生・英語）

問題番号	3(3)	解答形式	短答	本市正答率	27.8%
問題の概要	アルファベットの書き（聞く）				
出題の趣旨	音声を聞き、活字体の大文字を正しく書いている。（N）				
正答	N				

類型	正誤	解答類型（定義）
類型1	○	正答
類型2	×	アルファベットは正しく書けているが、4線上の書く位置を間違えている場合
類型3	×	n [読み方は正しく聞き取っているが、小文字を書いている]
類型4	×	M、m
類型5	×	L、l
その他	×	上記以外の解答
無解答	×	無解答（無記入の場合）

G-P分析図（本市小学校5年生全体）



【分析図から読み取ったこと】

本問題は、アルファベットを聞き、その大文字（N）を4線上に書く問題である。

全区分で誤答である類型4（M、m）を選択した児童の割合が最も高くなっている。「N」と「M」の名称はよく似ており、鼻音のみが異なるため、多くの児童にとって識別が難しく、名称のよく似ているアルファベットの聞き取りとその文字を書くことに課題があると考えられる。特に区分Ⅳでその他の解答が増加している点は、単に聞き誤っているだけでなく、音と文字の対応関係が十分に定着していない可能性も考えられる。

【指導の改善に向けて】

音のみの反復練習にとどまらず、ジングルなどを活用した意味のある語（キーワード）や視覚情報を結び付けた多面的な指導、「N」と「M」など、よく似た音の違いについて気付きを促す指導などが有効であると考えられる。

また、無解答のなかには、文字を書くことに苦手意識を持つ児童もいると推測されることから、身近な文字を探したり、文字を比較して文字の形を捉えたり、自分に関する文字から4線上に書き写すなど、スモールステップで文字に慣れ親しむことが必要である。

区分ごとの割合 (%)

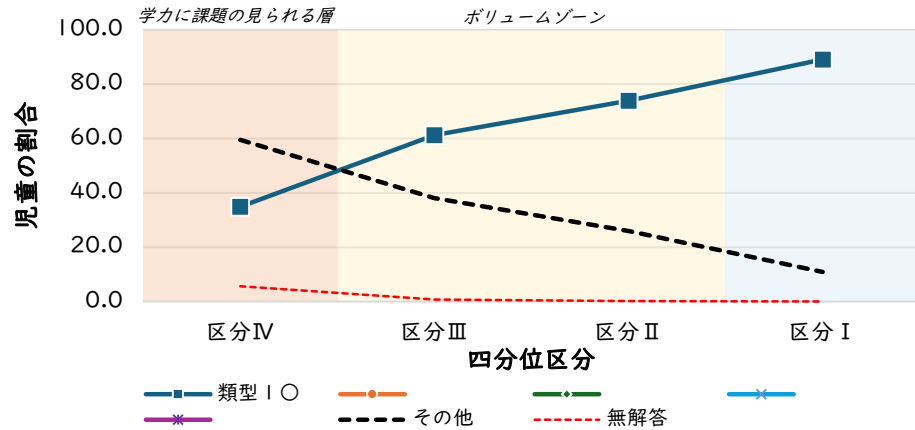
	区分Ⅳ	区分Ⅲ	区分Ⅱ	区分Ⅰ
類型1 ○	16.3	21.4	24.2	40.0
類型2	4.5	2.6	1.0	0.1
類型3	2.0	1.4	0.6	0.2
類型4 ×	53.6	67.3	71.5	59.1
類型5 *	4.3	2.1	0.3	0.2
その他 - - -	16.0	4.9	2.2	0.5
無解答 ·····	3.3	0.3	0.1	0.0

小学校学力経年調査問題分析（小学校6年生・国語）

問題番号	2②	解答形式	短答	本市正答率	62.4%
問題の概要	漢字を読む				
出題の趣旨	第6学年に担当されている漢字を正しく読んでいる。				
正答	ひひょう				

類型	正誤	解答類型（定義）
類型Ⅰ	○	選択肢Ⅰを選んだもの（選択問題以外では正答を書いたもの）
その他	×	上記以外の解答
無解答	×	無解答（無記入の場合）

G-P分析図（本市小学校6年生全体）



【分析図から読み取ったこと】

本問題は、第6学年に担当されている漢字を正しく読む問題である。  
 区分Ⅰに向けて正答率は高くなっている。区分Ⅰの児童の正答率が89.1%に対して、区分Ⅳの児童の正答率は34.9%であり、大きな開きがある。  
 このことから、区分Ⅳの児童は漢字の読みに課題があることを読み取ることができる。

【指導の改善に向けて】

区分Ⅳの児童においては、該当する漢字の定着に向けて、反復練習や文章の中での使い方を見直すような個別の指導が必要である。漢字単体で学習するのではなく、その漢字を含む例文を音読するなど、スモールステップで取り組むことが大切である。

区分ごとの割合（%）

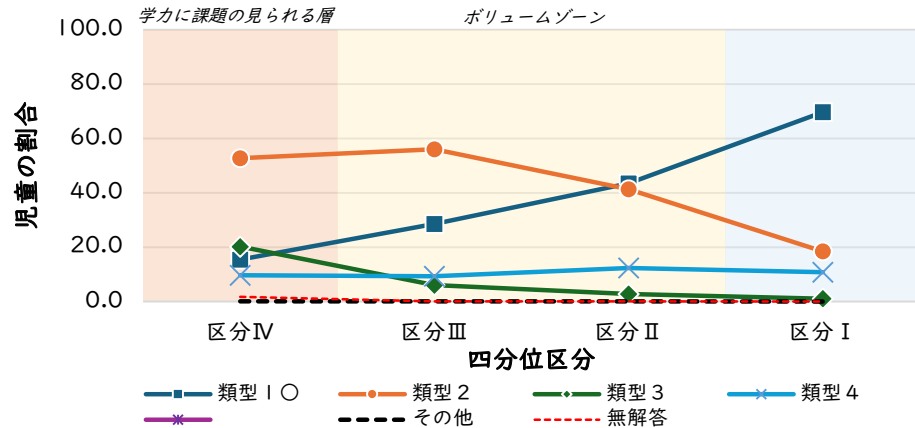
	区分Ⅳ	区分Ⅲ	区分Ⅱ	区分Ⅰ
類型Ⅰ○	34.9	61.2	73.9	89.1
その他	59.5	38.0	26.0	10.9
無解答	5.6	0.8	0.2	0.0

小学校学力経年調査問題分析（小学校6年生・社会）

問題番号	7(2)	解答形式	選択	本市正答率	39.1%
問題の概要	戦国の世の中				
出題の趣旨	朝鮮半島からもたらされた文化について理解している。				
正答	①				

類型	正誤	解答類型（定義）
類型1	○	選択肢1を選んだもの（選択問題以外では正答を書いたもの）
類型2	×	選択肢2を選んだもの
類型3	×	選択肢3を選んだもの
類型4	×	選択肢4を選んだもの
その他	×	上記以外の解答
無解答	×	無解答（無記入の場合）

G-P分析図（本市小学校6年生全体）



区分ごとの割合（%）

	区分Ⅳ	区分Ⅲ	区分Ⅱ	区分Ⅰ
類型1 ○	15.4	28.5	43.4	69.7
類型2 ●	52.8	56.0	41.3	18.5
類型3 ◆	20.2	6.0	2.8	1.0
類型4 ×	9.7	9.3	12.3	10.8
その他	0.1	0.1	0.0	0.0
無解答	1.7	0.0	0.1	0.0

【分析図から読み取ったこと】

本問題は、豊臣秀吉による朝鮮侵略の際、朝鮮半島から高い技術を持った職人が連れて来られたことにより日本に伝わった文化（有田焼などの陶磁器技術）について、資料（写真）を選択する問題である。

正答である類型1（有田焼）のグラフを見ると、区分Ⅰの児童では69.7%が正答しているが、区分Ⅲは28.5%、区分Ⅳでは15.4%と、学力層によって正答率に大きな開きがある。誤答に着目すると、類型2（鉄砲）を選んだ児童が多く、特に区分Ⅳで52.8%、区分Ⅲでは56.0%である。これは「外国から伝わった技術」という断片的な知識から、より印象の強い鉄砲（種子島への伝来）を選択してしまったものと推察される。

【指導の改善に向けて】

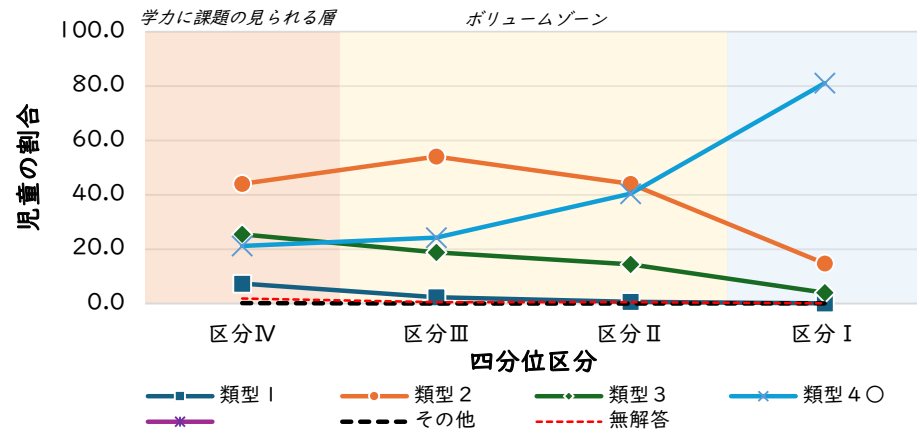
織田信長と豊臣秀吉の業績に関する情報を比べたり結び付けたりしながら読み取る技能や、調べたことを年表などに適切に整理する技能を身に付けるようにする。また、キリスト教の伝来などを扱う際に、世界地図などを用いて、日本の歴史的な事象をより広い視野から捉えることができるよう工夫することが大切である。

小学校学力経年調査問題分析（小学校6年生・算数）

問題番号	5(2)	解答形式	選択	本市正答率	41.6%
問題の概要	分数のかけ算・わり算				
出題の趣旨	分数の除法の文章問題にあった式を選ぶことができる。				
正答	④				

類型	正誤	解答類型（定義）
類型1	×	選択肢1を選んだもの（選択問題以外では正答を書いたもの）
類型2	×	選択肢2を選んだもの
類型3	×	選択肢3を選んだもの
類型4	○	選択肢4を選んだもの
その他	×	上記以外の解答
無解答	×	無解答（無記入の場合）

G-P分析図（本市小学校6年生全体）



【分析図から読み取ったこと】

本問題は、分数の除法の文章問題にあった式を選ぶ問題である。  
 正答である類型4の割合は、区分Ⅰで81.1%、区分Ⅱで40.5%、区分Ⅲ・Ⅳでは20%台となっている。全ての区分を通して類型2（ $7/10 \div 4/5$ ）を選んだ児童が非常に多く、特に区分Ⅲでは54.1%と正答の24.3%を大きく上回っている。これは「1mあたりの重さ」を求める際に、被除数と除数の関係を逆に捉えている児童が半数以上にのぼることを示している。類型3（ $4/5 \times 7/10$ ）を選択した児童の割合も各区分に15~25%程度となっている。問題場面における数量の関係性を「1mあたり」の考え方に結び付けられていない実態がうかがえる。

【指導の改善に向けて】

分析結果から、問題場면을数量関係図や数直線を用いて視覚化し、立式の根拠を理解させる指導が必要である。本問題で提示されているような数直線を用い、二量の関係性を視覚的に捉えさせることで、「 $4/5 \div 7/10$ 」という立式の妥当性を判断する力を養うことが大切である。また、数値を整数や小数などに置き換えて、ことばの式で表し、分数の場合も演算の構造は変わらないことを理解として定着させることも重要である。

区分ごとの割合 (%)

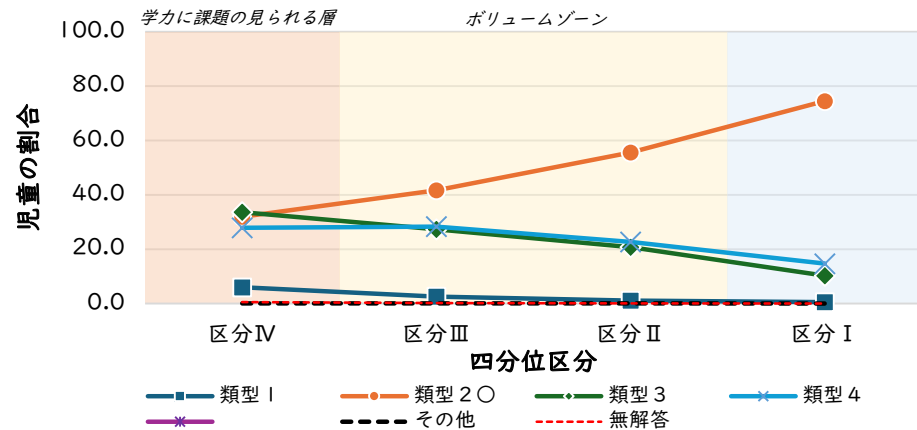
	区分Ⅳ	区分Ⅲ	区分Ⅱ	区分Ⅰ
類型1	7.3	2.3	0.6	0.1
類型2	44.0	54.1	44.1	14.7
類型3	25.4	18.8	14.4	4.0
類型4○	21.2	24.3	40.5	81.1
その他	0.2	0.0	0.0	0.0
無解答	1.8	0.5	0.5	0.1

小学校学力経年調査問題分析（小学校6年生・理科）

問題番号	4(1)	解答形式	選択	本市正答率	50.3%
問題の概要	植物のつくりとはたらき				
出題の趣旨	茎の水の通り道を理解している。				
正答	②				

類型	正誤	解答類型（定義）
類型1	×	選択肢1を選んだもの（選択問題以外では正答を書いたもの）
類型2	○	選択肢2を選んだもの
類型3	×	選択肢3を選んだもの
類型4	×	選択肢4を選んだもの
その他	×	上記以外の解答
無解答	×	無解答（無記入の場合）

G-P分析図（本市小学校6年生全体）



【分析図から読み取れること】

本問題は、植物の茎の中の水の通り道についての理解を問う問題である。誤答である類型3と類型4の割合がどの区分でもほぼ同じ割合となっている。このことから、茎の中で水が通る場所を正しくイメージできていない児童がいると考えられる。

【指導の改善に向けて】

植物の水の通り道について理解を深めるために、観察や実験を通して茎の内部のつくりを確かめる活動を充実させることが重要である。色水を用いた実験などにより、水がどの部分を通して上へ運ばれるのかを実際に観察することで、茎の断面と水の通り道との関係を具体的に捉えることができる。また、観察結果を図に表したり、茎の断面図と結び付けて考えたりする活動を取り入れることで、植物の体のつくりと働きを関連付けて理解できるようにする指導が大切である。

区分ごとの割合 (%)

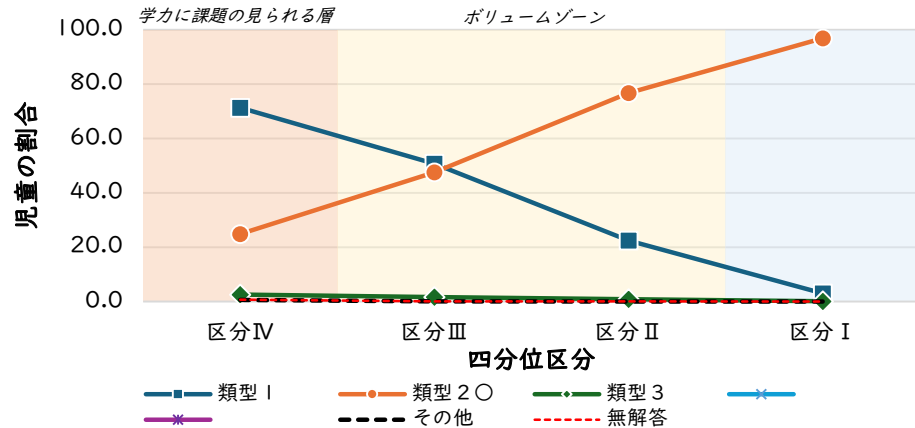
	区分Ⅳ	区分Ⅲ	区分Ⅱ	区分Ⅰ
類型1	6.0	2.6	1.0	0.5
類型2 ○	31.9	41.7	55.5	74.5
類型3	33.6	27.3	20.7	10.3
類型4	27.9	28.3	22.7	14.7
その他	0.0	0.0	0.0	0.0
無解答	0.5	0.1	0.0	0.0

小学校学力経年調査問題分析（小学校6年生・英語）

問題番号	5(1)	解答形式	選択	本市正答率	74.1%
問題の概要	会話全体の理解（聞く）				
出題の趣旨	日常生活に関する対話を聞き、目的や場面、状況などを推測している。（日課について話す）				
正答	②				

類型	正誤	解答類型（定義）
類型1	×	選択肢1を選んだもの（選択問題以外では正答を書いたもの）
類型2	○	選択肢2を選んだもの
類型3	×	選択肢3を選んだもの
その他	×	上記以外の解答
無解答	×	無解答（無記入の場合）

G-P分析図（本市小学校6年生全体）



区分ごとの割合（%）

	区分Ⅳ	区分Ⅲ	区分Ⅱ	区分Ⅰ
類型1	71.3	50.7	22.4	3.0
類型2 ○	24.9	47.5	76.7	96.9
類型3	2.6	1.6	0.8	0.1
その他	0.6	0.1	0.0	0.0
無解答	0.7	0.0	0.0	0.0

【分析図から読み取れること】

本問題は、対話を聞いてその内容に当てはまる絵を選択する問題である。区分Ⅳでは誤答である類型1の割合が高い。対話の前半では起床時間について質問しており、「8時 (eight)」が聞き取ることができれば正答できるが、対話の後半に出てくる「banana」や「milk」という聞き取りやすい単語のみで類型1を選んでいることが考えられる。区分Ⅲ・Ⅳでは、対話全体を捉える力が不十分と言える。

【指導の改善に向けて】

教科書の「Story」や「Let's watch.」、「Let's listen.」などの音声や映像を活用し、まとまりのある英語を聞いて場面や話のテーマについて推測する経験を積み重ね、部分的な単語だけでなく複数の手がかりで判断する重要性に気付かせることが必要である。今回の設問であれば、「What time...?」の表現から、時間について話していることに気付けることも大切である。特に区分Ⅲ・Ⅳでは「8時 (eight)」が聞き取れずに「banana」と「milk」が根拠になってしまったことも考えられることから、時間を尋ねたり答えたりする表現について丁寧に指導することが重要である。